社会言語科学会ニュースレター

The Japanese Association of Sociolinguistic Sciences

第 11 号

2002年2月1日　　発行：社会言語科学会事務局

〒214-8580 川崎市多摩区東三田 2-1-1 専修大学文学部永瀬研究室気付

Fax: 044-911-1231　E-mail: thb0308@isc.senshu-u.ac.jp

http://www01.u-page.so-net.ne.jp/ra2/jnagase/

《巻頭言》

メディア変容と社会言語研究

東京大学社会情報研究所

橋元　良明

新聞の人生相談欄に，40 代の主婦からの次のような質問が掲載されていました．「仕事がきっかけで知り合って文通が始まり，25 年間，きれいな交際を続けてきました．ところが，彼の仕事が忙しいことから，相手が手紙から携帯メールに切り替えて，やりとりするようになると，私の気持ちが恋愛感情に変わっていきました」．それで主婦はつらい気持ちを相手に伝えたところ，相手から距離を置こうという返事が来たようで，友情を元通りにするにはどうすればよいかを回答者にたずねています（読売新聞，2002 年 1 月 19 日付，「人生案内」）．

ここで非常に興味深いのは，25 年間も手紙による文通で育んできた男女間の友情が，携帯メールに切り替えたとたん，恋愛感情に変化したというところです．

今，若い人のほとんどが携帯電話を利用しています．我々が通信総合研究所と共同で 2001 年 11 月に実施した全国調査(12 歳-75 歳，有効回答数 2,816)で，日本人の携帯電話個人利用率は 61%でしたが，これを 20 代前半についてみると 95%(男性 94.2%，女性 96.5%）とほとんどの人が利用しています．携帯メールの利用になるとさすがに利用率が低下し，全体平均では 41%ほどですが，これも 20 代前半だけでみると 88%（男性 85.1%，女性 90.9%）で約 9 割の人が利用しています．ちなみに投書者のような 40 代女性の携帯メール利用率は 48%でした．

これをお読みになっている皆さんのほとんどが携帯メールの利用者でしょうからよくご存じのとおり，携帯メールでは 1 回せいぜい 250 字程度の本文しか送れず，液晶画面上の文字は小さく見にくく，文字入力もキーボードに比べ不便です．ですから，内容も，調査では，「そのときあった出来事や気持ちの伝達」や「とくに用件なし」など，とりたてて用件のないコンサマトリー（自己充足的）なメッセージが多く，用件を伝達する場合も「待ち合わせや訪問などの連絡」などのごく簡単なものと答える人の比率が圧倒的に多いという結果が出ています．

しかし，大学生のゼミで実施したインタビュー調査によると，若い人には意外に携帯メールの役割が高く評価されています．「喧嘩した後，メールでゴメンネと謝ると仲が戻る」「会って別れてすぐ携帯メールをもらうと，会っているとき以上に親密感を感じる」などと答える人も多くいました．携帯メールは，メッセージの文字量以上の感情交流に寄与していそうです．

［4 ページに続く］

2-3…第 9 回大会プログラム

4　…第 9 回大会会場校キャンパス案内図／巻頭言［続き］／前号の訂正とお詫び

5　…学会誌『社会言語科学』: 特集号テーマの募集・書評候補の募集・「特集・コミュニケーションの社会言語学」論文募集

6　…第 10 回大会のお知らせ／研究発表の募集／研究大会ワークショップ企画募集のお知らせ

7　…研究最前線／事業委員会から: 情報・原稿の募集のお知らせ

第9回社会言語科学会大会プログラム

期日　２００２年３月２日（土）・３日（日）

場所　千葉大学西千葉キャンパス

所在　〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33

開催校・連絡先電話　043-251-1111（代）

第1日　3月2日（土）　１０：００　受付開始　１０：３０　開会

１０：３０－１１：５５　研究発表：２会場で同時進行

〔研究発表１：Ａ会場（法経学部棟１０５講義室）〕

10:30-10:55　日本語母語話者の規範の顕在化　リサ・フェアブラザー（千葉大学）
—非母語話者の逸脱が留意される条件—

11:00-11:25　「ネサヨ運動」とその周辺　橋本 典尚（東洋大学）

11:30-11:55　狂言台本による談話展開の研究　原 奈々江（明治生命）
—地方狂言台本に与えた地域と伝承の影響—

〔研究発表２：Ｂ会場（法経学部棟２０６講義室）〕

10:30-10:55　接頭語「お／ご」の文脈場面による意味的変化　千 旭姫（名古屋外国語大学）
—国語辞典に基づいて—

11:00-11:25　他称詞としての現代日中両言語の親族語彙　陳 露（千葉大学）

11:30-11:55　ドイツ語の総称男性名詞とその代用表現の可能性について　髙橋 秀彰（九州工業大学）

11:55-13:30　休憩　（12:00-13:00　理事・監事は理事会）

１３：３０－１５：００　講演　〔会場：法経学部棟１０５講義室〕

【演題】　**Indexicality and American Construction of Japanese Racial Identity**

講演者　**Jane Hill**（Arizona 大学）

１５：００－１７：４５　ワークショップ：２会場で同時進行

ワークショップ１〔会場：法経学部棟２０６講義室〕

【テーマ】　メディア・ディスコースにおけるアイデンティティーの構築

企画責任者：　佐藤 彰　（大阪大学言語文化部）

話題提供者：　大原 由美子　（前国立国語研究所招聘外国人研究員）
佐藤 彰　（大阪大学言語文化部）
三宅 和子　（東洋大学文学部）

指定討論者：　岡本 能里子　（東京国際大学国際関係学部）

ワークショップ２〔会場：法経学部棟１０５講義室〕

【テーマ】　言語と社会的関係：言語使用におけるイデオロギーと指標性の諸側面について
Language and social relations: Aspects of ideology and indexicality in language use

企画責任者：　片岡 邦好　（愛知大学）
櫻井 千佳子　（日本女子大学）

話題提供者：　Asif AGHA　（University of Pennsylvania）
Jane HILL　（University of Arizona）
TAKEKURO Makiko　（University of California, Berkeley）
KATAOKA Kuniyoshi　（Aichi University）
Scott SAFT　（Tsukuba University）

18:00-20:00　懇親会〔会場：けやき会館１階・レストラン「コルザ」〕

第2日 3月3日（日） 10：00 受付開始 10：30 開会

10：30－11：55 研究発表：2会場で同時進行

〔研究発表3：A会場（法経学部棟105講義室）〕

10:30-10:55 協同作業場面の会話における協調的な参加を促す行動 山崎 真弓・本郷 智子（東京農工大学）
11:00-11:25 話者交替における適切な発話権の取得とは —タイミングから見た条件の規定と日本語学習者の実態— 木暮 律子（名古屋大学）
11:30-11:55 小学校における多様な言語背景の児童の言語習得場面 三田 美佐子（桜美林大学）

〔研究発表4：B会場（法経学部棟206講義室）〕

10:30-10:55 中級日本語学習者の誤用訂正能力 —謙譲語（動詞）の場合— 宮田 剛章（南山大学）
11:00-11:25 現代の日本人高校生は敬語を どのように認識し，使用しているのか 深田 芳史（Westgate Corporation）
11:30-11:55 韓国における接客敬語行動について 金 美貞（大阪大学）

11:55-13:00 休憩

13：00－15：00 ポスターセッション〔会場：法経第1会議室〕

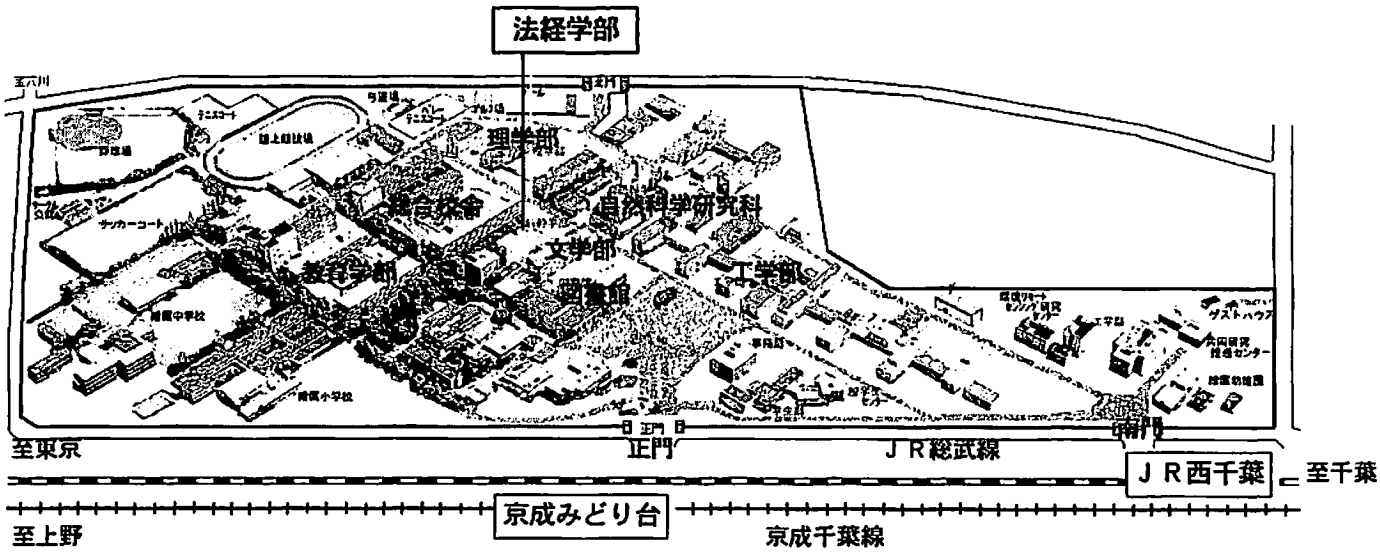
P-01 日本語会話における「語り」と ターンテイキングの関係
畠山 紀子（群馬県立女子大学）
P-02 現代日本語の敬語の動態 —大学生へのアンケートを基に—
玉井 宏児・金 順任・陳 秋燕・趙 貴玉（東京外国語大学）
P-03 番組題名に使用される語句における時代変遷と その地域差の研究
長谷川 裕子（東海東京証券）
P-04 複数言語による母親と乳児の 二項・三項関係インタラクション
米沢 久美子（お茶の水女子大学）
P-05 在日中国系留学生の会話における 日本語コードスイッチング
張 阮惠（大阪大学）
P-06 日本語非母語話者の1日の文字接触における 言語管理と自然習得過程 —非漢字圏出身者のケース・スタディー—
金子 信子（桜美林大学）
P-07 日韓の非言語コミュニケーションにおける表情の 対照—4コマ新聞漫画の分析を中心に—
権 敬珉（学習院大学）
P-08 詫びの場面における日中韓非言語行為に関する —考察
崔 信淑（大阪大学）
P-09 非母語話者同士の会話における「意味交渉」により 引き出された調整—韓国語母語話者による日本語 会話を分析資料として—
坂詰 洋子（南SEOUL大学）
P-10 日本人による英語の内輪的使用とその問題
川嶋 悠記子（青山学院大学）
P-11 高校英語教科書の偏った「国際観」
柴田 亜矢子（青山学院大学）

15：00－18：00 シンポジウム 〔会場：法経学部棟105講義室〕

【テーマ】 コミュニケーションのマルチ・チャネル・アプローチ
企画責任者： 大坊 郁夫（大阪大学）
話題提供者： 山田 寛（日本大学）
山口 一美（立教大学）
中丸 茂（駒沢大学）
大坊 郁夫（大阪大学）

18:00 閉会

千葉大学西千葉キャンパス案内図



(http://www.chiba-u.ac.jp/JP/gakuseibu/gakuseika/m-nisinairi.htm 参照)

○交通案内　JR（総武線）西千葉駅北口から徒歩約 2～3 分

［巻頭言続き］

携帯メールが感情的側面でかなり影響があるとすれば，ひとつはコストや簡便性から，非常に高頻度でやりとりされるからでしょう．調査では 20 代前半の 5 割以上（女性では 58%）が「日に数度，受発信する」と答えています．でもそれ以上に，携帯電話の場合，お互いにほとんど四六時中，身に携えていてチェックしあっているということが関係していそうです．若者にとって，携帯電話は，文字通り身体の一部になっていて，「相手の心に直接繋がる糸電話」というような認識をもっている人もいました．固定電話やパソコンは，たとえ身近に置いてあったとしても，しょせん一定の「場」に所属しています．携帯電話は自分にとっても相手にとっても，いわば身体に取り込まれています．そうした感覚が，25 年間の友情を恋愛感情に変える作用を果たしているのかも知れません．

「対人関係において，メディアは，それだけで単独に一方向性の大きな影響力をもつものではなく，それが利用される土壌の傾向を増幅する触媒として働く」というのがメディア研究の定説で，それは確かに正論です．携帯メールを使うようになって，親密になるどころか，むしろ仲が悪化したと報告する人もいます．しかし，冒頭にあげた例でもそうですが，もし携帯メールを利用しなかったら，生じ得なかったと思われる事態が生じているのも事実で，メディアの影響力を過小評価することもできません．

めまぐるしく変化するメディア環境下で，以前よりはるかに，年代や性別等によるメディアの利用形態の相違が大きくなってきました．とくにインターネットや携帯電話などのコミュニケーション・メディアの場合がそうです．メディアの特性は，通信頻度や通信量ばかりでなく，文体や語用論的言い回しの選択，内容にも制約を加えます．さらにそのことは，つきあいの頻度や深浅の程度，対他感情の中身にまで影響が及びます．社会言語研究が，言語と，社会や文化，人の心理との関連を扱う研究分野であるとすれば，メディアによる言語行動上の影響も，重要なテーマだと言えます．コミュニケーション・メディアが急速な発展を遂げ，その動向も見きわめがたく，また蓄積された研究がまだ数少なく，分析的方法論も確立されていない今こそ，とくに若い研究者のとりくみが望まれる領域だと思うのです．（はしもと　よしあき）

訂正とお詫び

ニュースレター前号（第 10 号）に誤りがありました．訂正してお詫び申し上げます．（学会事業委員会）

〔研究発表 1〕11:25-11:50「日韓の非言語コミュニケーションについて―断りを表明する場合を中心に―」

誤　「任　樹（名古屋大学）」　　正　「任 炫樹（名古屋大学）」　　（2 ページ）

学会誌　『社会言語科学』

特集号テーマの募集

『社会言語科学』では，特集号を発行しています．これまでに「日本の言語問題」（第 2 巻第 1 号），「日本語と言語接触」（第 3 巻第 1 号），「電子社会の言語科学」（第 4 巻第 1 号）の特集が実現し，現在「言語の対人関係機能と敬語」（第 5 巻第 1 号の予定）の特集が進行中です．よい特集のテーマがありましたら，学会誌編集委員会委員長までご提案ください．

学会誌編集委員会委員長　岡　隆　E-mail: oka@l.u-tokyo.ac.jp （"l"は英字のエルです）

書評候補の募集

『社会言語科学』では，毎号 2，3 本の書評を掲載してきました．書評欄の一層の充実をはかるために，学会誌編集委員会内に書評担当編集委員をおきました．よい書評候補がありましたら，書評担当編集委員と学会誌編集委員会委員長までご推薦ください．ご推薦には，①書評対象図書名，②書評候補者（会員に限る），③図書の推薦理由（2，3 行）をお含みくださり，書評担当編集委員と委員長の両方にお送りください．なお，書評の投稿につきましても，従来通り受け付けます．

書評担当編集委員　渋谷　勝己　E-mail: shibuya.katsumi@nifty.ne.jp
学会誌編集委員会委員長　岡　隆　E-mail: oka@l.u-tokyo.ac.jp

特集論文の募集のお知らせ

学会誌編集委員会では，「コミュニケーションの社会言語学」の論文を募集しています．特集に投稿された論文は，通常の投稿論文と同じく，査読を経て掲載が決定されます．原稿の種類，原稿の書き方，投稿のしかた，投稿先などは，通常の論文の場合と同じです．投稿に際し，「特集」のための論文であることを明記してください．

論文投稿の締切：2002 年１１月３０日(土)　　掲載号の発行：2003 年 7 月(第 6 巻第 1 号に掲載予定)

お問合せ先：　学会誌編集委員会委員長・岡　隆
E-mail: oka@l.u-tokyo.ac.jp　Fax: 03-3815-6673
〒113-0033　文京区本郷 7-3-1　東京大学文学部社会心理学研究室

特集・コミュニケーションの社会言語学

社会言語科学会は，人間相互のコミュニケーションあるいは言語の機能を特に重視したトランスディシプリナリーな学会として，1998 年 1 月 24 日に創立されたと，学会誌創刊号の巻頭言にある．5 周年を迎え，ここに，コミュニケーションそのものをテーマとした特集を組みたい．

コミュニケーションは，いうまでもなく相互的な行為である．ここ百年ほどの近代言語学の歩みをふりかえると，言語は，理想的な一人の話者が有する抽象的な体系として捉えられてきた．こうした言語観が，豊かな価値ある知見を生み出してきたことはまぎれもない事実である．しかしながら，われわれはいま，パラダイムの転換を迫られている．

異質な他者との相互作用の中で，変化しながら，実時間とともに進展するコミュニケーション．この動態をあやまりなく正確に捉えるモデルが，学問として求められているのである．その姿は，言語のしくみとして解明される必要があるとともに，言語それだけに閉じたものではない．コミュニケーションとは，人間が，相互に行うものである．とすれば，ことばを超えた，人自体の営みとして，個人と社会の両面に考慮しつつ，包括的にこれを捉える視点がなければならない．社会言語科学会が，トランスディシプリナリーな学会としての性格を有するのは，必然的な要請の結果なのである．

特集は，総論と，各論，および応用論の三部から構成したい．

総論は，それぞれの学問的発想からコミュニケーションを捉えなおし，位置づけ，今後の展望を示す論を募集する．総論は，理論的な整理を主として行う研究であってよい．たとえば，「社会心理学からみたコミュニケーション研究」といったようなもの．

各論は，個別の事象を，コミュニケーションという観点から記述あるいは再考する，実証的な研究を募集する．説明にまで及んでいなくても，良質な記述に成功していることを大切にしたい．

応用論は，コミュニケーションの観点から，今日の現実的な課題を整理し，その解決を模索する，具体的な事例を含んだ論を募集する．言語教育や情報処理はもちろんのこと，気がつきにくい問題点を指摘する論も歓迎する．たとえ少ない事例であってもかまわない．課題との関係が具体的かつ説得的に示されていることが重要である．

どの部門に関しても，コミュニケーションという観点から各自が問題そのものを発見し，魅力的な題を提示し，論を展開していただくことを望んでいる．テーマがコミュニケーションに関係したものであれば，題には「コミュニケーション」という術語を含まなくてよい．希望部門の記入は，あればよいがなくてもよい．最終的な配置はおまかせいただきたい．

多様な経験を持つ会員の，多様なディシプリンから発想された，多様な切り口の論が並び，結果として現代のコミュニケーション研究の現状と課題が総合的に浮かび上がるような特集号になることを願っている．会員の皆様のご努力とご協力をあおぐものである．

（イシューエディタ：沖　裕子）

第１０回大会は以下の予定で行われます

期日　２００２年9月２１日(土)，２２日(日)

場所　東北大学　川内北キャンパス

所在　〒980-8576 仙台市青葉区川内
(http://web.bureau.tohoku.ac.jp/campus_guide/map.html#kawauchi 参照)
開催校・連絡先電話　022-717-7800（代）
交通　JR 仙台駅前バスプール，のりば9から市バスで約10分「扇坂」下車

研究発表の募集　第１０回大会の研究発表を以下の要領で募集します

発表種別には，口頭発表とポスター発表を設けました．ポスター発表は会員同士が直に議論や情報を交わすことのできる発表形態です．奮ってご応募をお願いします．

［発表資格］　申込の時点で社会言語科学会の会員であること（申込と同時に入会も可．連名発表の場合，筆頭発表者・口頭発表者は本学会員である必要があります）．

［発表内容］　本学会の趣旨に沿った分野の内容で未発表のもの．（社会言語学，社会心理学，社会学，心理学，コミュニケーション論，言語学，言語人類学，文化人類学，語用論，日本語教育，英語教育，情報科学，認知科学，人工知能，その他の分野で，ことばを社会や文化・認知との関係でとらえた研究）

［発表形態］　(1)口頭発表（質疑応答を含め 25 分程度の発表時間を予定），(2)ポスター発表（ポスター数件を集めてポスターセッションを構成します．発表者と聴衆が直接議論することができます．）

［応募要領］　(1)発表題目，(2)氏名，(3)住所，(4)連絡先電話/Fax 番号，(5)E-mail アドレス，(6)所属，(7)職名，(8)希望発表形態（口頭/ポスター），(9)発表要旨 1,200 字程度を記載した E-mail を下記アドレスに送付してください．

なお，E-mail での応募を原則としますが，郵送でも受け付けます．その場合，上記(1)～(9)の項目をなるべく A4 用紙 1 枚に収めるようご記載ください．
※要旨の言語は日本語を原則としますが，英語でも受け付けます．

［応募先］　jass-submission@mic.atr.co.jp
〒180-0001 東京都武蔵野市吉祥寺北町 4-1-27-208
社会言語科学会研究大会委員会　阿部圭子
Fax: 0422-55-5759

［申込締切］　２００２年6月１５日（土）

［予稿集］　採否の結果は 7 月 15 日までに応募者に連絡します．

発表者には（口頭発表，ポスター発表とも），発表に先だって予稿集用の原稿の執筆をお願いします．A4 サイズで 6 ページ以内，締切期限は 2002 年 8 月 15 日の予定です．

なお，応募の採否，発表順序などについては研究大会委員会にご一任願います．発表形態(口頭あるいはポスター）についても応募時の希望に沿えない場合もありますので予めご了承ください．
※第 9 回大会では，24 件の発表応募があり，そのうち 23 件を採択させていただきました．

研究大会ワークショップ企画募集のお知らせ

研究大会では，これまで研究発表の他に大会企画として招待講演，シンポジウム，ワークショップを開催してきました．研究大会における会員間の交流を促進し，大会を一層実りあるものとするために，次回の研究大会でも，会員の提案に基づくワークショップの開催を計画しています．特定のテーマを設定して集中的に討論を行い，研究課題の整理・発掘，新たな研究方向の提示，異分野間の認識の擦り合わせを目標とします．

上記趣旨により，ワークショップの企画を広く会員のみなさまから募集いたします．企画提案者は以下の項目を添えて E-mail にて下記までお申し込みください．

［提案項目］
(1) ワークショップ題目
(2) 企画責任者の氏名，所属，連絡先
(3) 他のワークショップ参加予定者の氏名，所属
(4) ワークショップの企画概要（1,000 字以内）

［送付先］　jass-workshop@mic.atr.co.jp
〒619-0288 京都府相楽郡精華町光台 2-2-2
国際電気通信基礎技術研究所　片桐恭弘
Fax: 0774-95-1178

［申込締切］　２００２年6月１５日（土）

○ワークショップは大会期間中に研究発表とは独立に 1 企画あたり 3 時間程度での開催を予定しています．ワークショップ並列開催の可能性はありますが，研究発表とは重ならないよう設定する予定です．
○会場準備の都合上，申し込み多数の場合には，すべての開催希望に添えない場合もあります．ご了承ください．

前号から毎号1人の会員にお願いして，各人の「研究最前線」をお伝えしています．

研究最前線

第2回は，庄司博史氏にお書きいただきました．

多言語化現象をかんがえる

庄司博史
（国立民族学博物館・総合研究大学院大学）

この 15 年ほどの日本の大きい変化のひとつに外国人の増加がある．実際，かつては都会でも外国人をみつけると，ふりかえってみたり，おとなまでもハローやガイジンといって指さしたものだ．しかし今では，そんなことをすれば，いなかものとわらわれる．少しまえなら隣の座席に外国人がいると話しかけられないよう眠ったふりをしたが，今なら多すぎてずっと眠っていなければならないほどだ．ごく一般の店でも，店員としてはたらく外国人の応対もごく自然にうけられるようになった．気がつくと近所どなりや職場，場合によっては知人や友人に 2，3 人外国人がいてあたりまえの時代である．

われわれが外国人にいちいち反応しなくなったのは，もちろん外国人が実際にふえたためである．一見して外国人にみえない人をふくめるとその数は印象よりはるかにおおい．統計上，現在外国人として登録されているだけで，170 万人，住民の 1.4％にあたる．これにいわゆる不法滞在といわれる 20 数万，さらに日本国籍を取得した人々をくわえると，外国にバックグラウンドをもっている人は 200 万にはなろうといわれている．中国帰国者など特殊な事情もあるが，あきらかにグローバル化を背景とした現象である．

外国人へのなれとおなじことがことばの上，つまり外国語に対するなれとしてもおこっているのだろうか．外国人の増加やさまざまな文化がはいることを多民族化，多文化化というなら，外国語と接触することは多言語化ということができる．このような多言語化の現象とその影響をあきらかにしようというのが，現在のわたしの関心である．昨今のグローバル化が少なくとも庶民と外国語の物理的な距離をいつのまにか縮めてしまったのは事実だ．都会でナマの外国語に接することは日常頻繁におこっている．エスニック雑貨店だけではなく街頭や電車の中で中国語やポルトガル語や朝鮮語が耳にとびこんでくる．外国人用の外国語放送，店内案内や看板，役所では多言語サービスが普及し，社会にすすみつつある外国語対応は彼らの存在をさらに感じさせる．一方で外国人の日本語能力もあたりまえになり，またひかえめながら自分たちも外国語で交流する術を確かに身につけてきた．さまざまな状況下で，おおくの日本人は外国人との対面的，個人的な接触の経験を蓄積しつつあり，外国語をきいてあわてふためいたり，きこえないふりをすることもない．

以上のような多言語化の体験のおかげで，外国語というだけで心的な障壁をつくり，つきあいが阻害されるということもへりつつある．さらに，多言語化は，日本人が理想や現実とみなしてきた国家＝民族＝言語という認識をくずすきっかけのひとつになるのではという予想と期待をいだいている．西欧で近代国民国家の理想としてうまれた思想は，日本にむしろ安住の場をみつけ，強化さえされてきた．先住民族や多くの植民地支配に由来する人々の存在を無視できたのもそのおかげにちがいない．当の西欧では，EU にみられるように国家の垣根をひくくし，域内の少数民族の権利を積極的にみとめようとしている時代，いまだに単一民族などといえるのは，この理念がふかく浸透しているからこそだろう．

このようなエスニック・コミュニティーやメディアなどにみられる多言語使用，さらに政策，NGO 活動などに実践されている多言語理論の例，人びとの言語意識の変容など多言語化にかかわるさまざまな現象をかんがえる試みのひとつとして多言語化現象研究会（http://homepage2.nifty.com/tagengo/）をたちあげた．資格不問，会費無料の開放された研究会で，関西を中心に研究者，大学院生，NGO 活動家などが参加し，まもなく 3 年をむかえる．出席者が 5 人をきれば停止するつもりでいるが，しばらくは続きそうである．

以下の情報・原稿を募集しています

○**博士論文一覧**　本学会の趣旨に沿った分野の内容で書かれた，2000 年度，2001 年度の博士論文一覧を，順次，掲載する予定です。情報（論文タイトル，著者名，所属）をお寄せください．要旨・抄録は掲載いたしませんのでご了承ください．

○**新刊紹介**　本学会の趣旨に沿った分野の内容で書かれた，よい新刊がありましたら，1 冊につき 200 字程度でご紹介ください（書評はお受けいたしません）．自薦・他薦は問いません．採否は当委員会にお任せください．

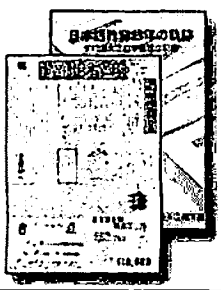
○**送付先・問合せ先**　社会言語科学会事業委員会　jassjigy@cf6.so-net.ne.jp

ニュースレター担当: 学会事業委員会

学校法人江副学園 URL http//www.sng.ac.jp MAIL office@sng.ac.jp

私達は若い研究者を応援します。

学校法人江副学園は、1975年に設立された新宿日本語学校が、1999年に日本語教育を目的として新たに設立した学校法人です。現在、この学校法人は新宿日本語学校（略称SNG）とカルチャー・アンド・ランゲージ・センター日本語学校（略称CLC日本語学校）の二つの日本語学校を経営しています。私達は、日本語教育に陽があたらなかった時代に細々と学校を運営してきました。私達なりのそうした苦労の結果迎えた学校法人設立です。公益法人となった今、若い研究者の育成のためにささやかな資金援助をすることも、それが意義がある限りは、私達の目的の一つと考えています。



「日本語教育25年の軌跡」（発行・新宿日本語学校）

今日、多数のアジアからの学生が来日しているのを見て、日本語教育はアジア中心にスタートしたと思われるかも知れません。しかし、私達は日本語学校を開いた1975年（昭和50年）の私達の学校は欧米の学生であふれていました。

当時は中国や韓国の学生は、特別な許可を得た人でなければパスポートを手にすることは不可能だったのです。そうした一般日本語教育が芽を出し始めた頃の日本語学校の姿を伝える貴重な一冊です。ここには、1975年から1985年までの10年間の機関誌が縮刷版のようにして集められています。また、文部省（当時）が最初に一般日本語学校に委託した昭和58年度の委託研究の成果「ワープロを利用した日本語教授法」も掲載されています。御興味のある方は当校まで。 定価2000円（税別）

学校法人江副学園
新宿日本語学校
169-0075 東京都新宿区高田馬場2-9-7
Tel 03-5273-0044 Fax 03-5273-0018

CLC
学校法人江副学園
CLC日本語学校
169-0051 東京都新宿区西早稲田3-16-13
Tel 03-5273-0753 Fax 03-5292-3180

「SPSS 11.0J for Windows」 発売記念キャンペーン実施中

NEW!

優れたデータ管理、分析レポートとモデリング。貴方の研究に大いにご活用ください！
お待たせ致しました。SPSS11.0 大好評発売中 !! http://www.spss.co.jp/product/ALL/base/index.htm

再構成ウィザード

SPSSを使用して分析を進める際、最も時間がかかるのはデータ加工ではないでしょうか。分析の対象としたいデータがSPSSの分析に適応した形式となっていない場合のデータ加工をサポートする「再構成ウィザード」がSPSS11.0より追加されます。

比率分析

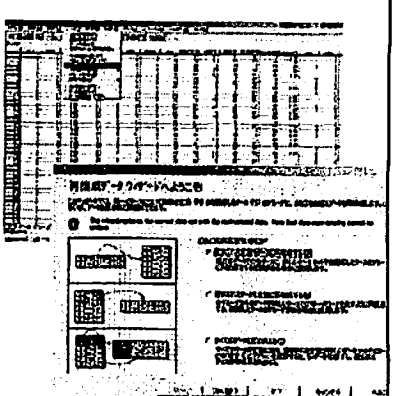
新しい比率分析は散らばりの係数、変動係数、価格に関連する差異、および平均絶対偏差を含む2つのスケール変数の比率を描写する要約統計量のリストを備えました。

線形複合モデル

入れ子のデータ構造をもっている場合、新しい機能によって予測モデルを構築することができます。固定効果ANOVAモデル、無作為化完備ブロック デザイン、分割法デザイン、純粋変量効果モデル、変量係数モデル、多重レベル分析、無条件線型成長モデル、人レベルの共変量による線型成長モデル、反復測定（経時的変化）分析、および時間依存の共変量による反復測定分析を含むさまざまなモデルを公式化することができます。さらに被験者間で観測数が異なるような不完備反復測定デザインも行うこともできます。Advanced Models オプションで使用可能です。

パフォーマンスの強化

一般線形モデル、近接、階層クラスタ分析（Base システム）、および多項ロジスティック回帰（Regression Models）が以前のバージョンよりパフォーマンスが向上しました。



<教育機関に携わる皆様へ>

授業で SPSS をお使いの先生方に様々なアカデミックパッケージをご用意しております。

- サイトライセンス契約～教室など複数台でご利用になる場合
  ☆ 学部、大学全体での大規模導入に最適な「無制限ライセンス」もご用意しています。
- Graduate Pack～学生の自習用に・・・学生専用廉価版特別パッケージ

詳細につきましては下記までお問い合わせ下さい。

SPSS

エス・ピー・エス・エス株式会社 〒150-0012 東京都渋谷区広尾 1-1-39 恵比寿プライムスクエアタワー 10F
Tel:03-5466-5511(代) Fax:03-5466-5621 e-mail:jpsales@spss.com URL http://www.spss.co.jp